

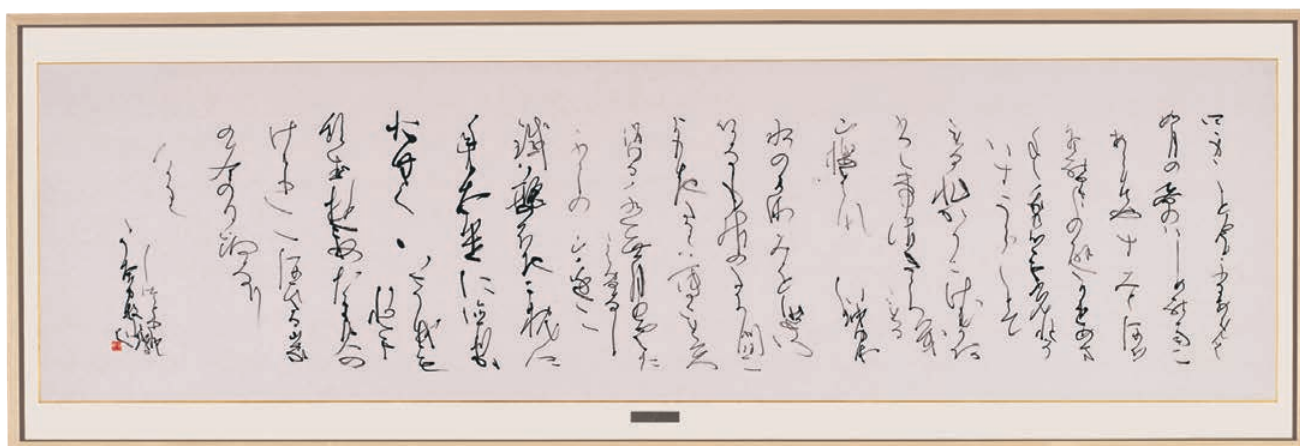
# 日展ニュース

No. 190

<https://www.nitten.or.jp/> 令和7年6月30日発行

編集兼発行人 神戸峰男

## 第89回 定時総会



あくがれ 榎倉香邨



# 第89回定時総会報告



日時 令和七年五月二十八日  
午後二時

場所 上野精養軒 桜の間

出席 四五五名（含議決権行使書）

宮田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

- (一) 令和六年度事業報告承認について
- (二) 令和六年度決算承認について
- (三) 令和七年度事業計画書報告について
- (四) 令和七年度収支予算書等報告について
- (五) 会員人事報告について

その他の報告事項

- 1 令和七年度 称号授与予定者報告について
- 2 第十一回日展巡回展開催報告について他

会員新人事

新会員

令和七年三月十九日開催の理事会において、左記十六名が選出された。

令和七年四月一日付

日本画

猪熊 佳子 畑中那智子  
松永 敏 行近壯之助

洋画

中土居正記 二宮 弘一

彫刻

切原 勇人 前田 真里  
三上 健治

工芸美術

西 緑 森 克徳

書

岩村 節廬 大田 鵬雨  
佐井 麗雪 松村 博峰  
山口 啓山

委員会委員新人事

令和七年五月十三日開催の理事会において、委員会組織の再編について協議が行われ、「出版委員会」を廃止し、「日展ニュース委員会」の名称を「出版・編集委員会」に変更することを決議した。  
また、同理事会において、左記委員会委員が選考された。

諮問委員会

外部委員

※職名・肩書は令和七年五月現在

秋元 雄史（東京藝術大学名誉教授）  
梅崎 壽（東京地下鉄株式会社名誉顧問）  
黒川 廣子（東京藝術大学美術館館長）  
島谷 弘幸（皇居三の丸尚蔵館館長）  
室伏きみ子（お茶の水女子大学名誉教授）

内部委員

日本画

米倉 正美

洋画

平野 行雄

彫刻

勝野 眞言

工芸美術

相武 常雄

書

田中 徹夫

出版・編集委員会

新準会員

新会友

日本画

龜山 祐介 西田 真人

洋画

浅見 文紀 松野 行

彫刻

野原 昌代 堀内 秀雄

工芸美術

上原 利丸 古瀬 政弘

書

歳森 芳樹 山本 大悦

広報委員会

日本画

長谷川喜久 間瀬 静江

洋画

石田 宗之 寺久保文宣

彫刻

寺山 三佳 中原 篤徳

工芸美術

林 香君 村田 好謙

書

佐々木宏遠 吉澤 鐵之

令和七年三月十九日開催の理事  
会において、左記二十一名が選出  
された。

令和七年四月一日付

第一科 日本画（五名）

小木曾 登 久保 嶺爾  
竹内 昌二 三上 友子  
三谷 佳典

第二科 洋画（四名）

内海 洋江 大木 基彰  
越谷なつみ 鷺 悦太郎

第三科 彫刻（四名）

窪 信一朗 桑原 秀栄  
高橋 忠 最上 健

第四科 工芸美術（三名）

織田 定男 加藤 丈尋  
谷口 信夫

第五科 書（五名）

石川 青邱 河合 鷹山  
川上 鳴石 時崎 伍鳳  
豊原 睦子

令和七年三月十九日開催の理事  
会において、左記九十八名が選出  
された。

令和七年四月一日付

第一科 日本画（十二名）

新屋小百合 磯部 絢子  
奥山 和子 駒井 伸子  
高橋美保子 中村 妃菜  
福田 寛子 伏屋 友賀  
俣田 千尋 宮田 淑子  
森 花 山守 良佳

第二科 洋画（二十四名）

浅川 初幸 浅野 岳  
大谷 芳滋 奥野 良之  
鹿島 義幸 久保多貞夫  
小村 啓子 さとうみちこ  
斎藤 一男 坂 恭子  
篠崎 京子 島上 二郎  
鈴木 三枝 田中 慧  
内藤 江美 中尾廣太郎  
中島あけみ 野口 俊介  
蜂須賀美智子 林田 和子  
前田 理英 山口 好三  
山口 忠彦 吉江 道子

第三科 彫刻（二名）

有賀 祥 井上 智

第四科 工芸美術（十一名）

内山 元子 何 穎斯

第五科 書（四十九名）

木村 雅子 小谷 道子  
志観寺 愛 下村 純子  
瀬口美千代 田中かのこ  
宮崎 明美 矢崎 朱実  
渡邊 真樹

阿座上 将 阿部 泰秀  
吾妻 政治 鵜 靄轟  
石井 蕙園 板垣 雅峰  
上原 寒海 尾崎 紫惶  
尾花 太虚 大久保柯舟  
大竹 汎泉 岡西 光刻  
帷子 紫峰 葛輪 啓子  
倉田 朱鷗 小日向慶可  
小宮 聴真 後藤 石鼎  
今 和希子 近藤 青洸  
重村亜紀子 芝池 貴子  
神保 峯子 末常 照子  
杉浦 弘承 鈴木 香鵬  
清水美智子 妻木まち子  
戸田 早耶 中西 雅舟  
中山 桃邨 長谷川鸞卿  
早瀬 明観 原 龍児  
藤澤 順子 眞殿イツ子  
増山 聖仙 松尾 碩甫  
満生 憲親 三原 彩鈴  
三宅 鏡華 武藤 博子  
森本 朝子 山下 睦未  
山本 智子 湯浅 光峰  
吉岡 情舟 吉田多雅士  
若杉 美香

## 4

この度は会員に推挙いただきありがとうございます。学生時代から研鑽の場として一心に作品に取り組んできました。これまで多くの先生方、先輩、志を同じくする人との出会いがありました。道に迷った折、導いて下さり励ましがあり描き続けることができました。心新たに身を引き締め制作したいと思っています。

日本画 猪熊佳子



《雨の苔森》 猪熊佳子

ご挨拶申し上げます

新会員より



《樹》 畑中那智子

輝かしい伝統ある日展の会員に仲間入りさせていただき、尚一層切磋琢磨して励みたく存じております。幼少時から絵を描くことが好きで、時間があれば、描いていました。大学は薬学部に入り、薬学生物学を学び、顕微鏡で観察し、スケッチをしていました。その関係もあり自然、植物、人生を題材にしています。

日本画 畑中那智子



《雨意》 松永 敏

この度の会員への承認は大変光栄で、身に余る思いです。日展は自分が成長するために欠かせない場であり、これまでたくさんの先生方がご指導・ご鞭撻くださりました。お力添えあってこそ、今の自分が在ります。このご恩に少しでも報いることが出来るよう今後とも精進して参ります。

日本画 松永 敏

私の代表作を考えますと、日展に出品したものが幾つもあります。表現の場としては個展を第一に考え制作に勤しんでいますが、日展に出品するという特別な機会は寧ろ自分の素養を目覚めさせる貴重な機会だったとも思え、感謝しています。まだ境地を得るには道のりは長く、続けて行きたい思います。

日本画 行近壯之助



《再生・光の中に》 中土居正記

作品図版  
第11回日展出品作  
2024（令和6年）



《And The Sun》 行近壯之助

日展は学生の頃からの憧れの存在でした。その会員の位置に身を置いた今、アートで世の中がもっと幸せにならないものかと、自分の制作テーマを少し方向転換しようとしています。そしてこれまでお世話になった先輩や周りの方々に感謝しながら一筆一筆気持ちを込めて描き続けたいと思います。

洋画 中土居正記



この度は会員にご推挙いただきまして身に余る光栄と感謝の気持ちでいっぱいです。これからも自らの画業一路邁進はもとより、先輩方の足跡、ご指導を今一度胸に刻み込み、制作に取り組んでいく所存でございます。また、後輩の指導育成にも力を向け日展の発展に尽力いたす所存でございます。

洋画 二宮弘一



《天主堂 (天草)》 二宮弘一



《木の芽風》 切原勇人

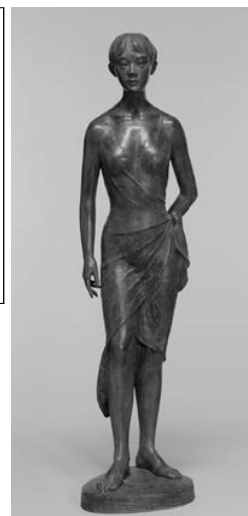
日展の会員に推挙していただき、大変光栄に存じます。これまでのご指導と、お導きいただいた先生方に感謝し、これからも精進を重ねていきたいと思えます。それでもまだまだ迷い続ける制作であります。また新たな彫刻の可能性を信じて、人の心に届くような作品作りを目指していきたいと思えます。

彫刻 切原勇人

今日まで彫刻の制作活動が続けることが出来ましたのは、先生方のご指導とご理解をいただいたことと思えます。

この度新会員となりまして新たな出発の機会をいただけたと思い、身を引き締め制作にあたる所存です。さりげない姿の中に生命に満ちた自然で微妙な動きを追求していきたいと思えます。

彫刻 三上健治



《希望》 三上健治



《晩夏》 前田真里

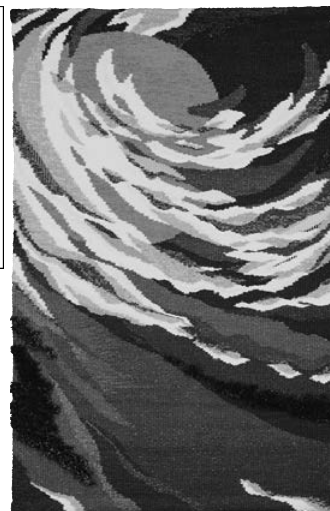
歴史ある日展の会員にご推挙いただき、身の引き締まる思いです。ご指導賜りました先生方、先輩方に深く感謝を申し上げます。

これまで人体の命のぬくもりを感じていただけのような具象彫刻を追い求めてまいりましたが、審査員を経験し体感したことを糧にさらに深く精進してまいります。

彫刻 前田真里

『制作が続けたい』という想いだけで続けた40数年でした。栄誉ある日展会員にご承認いただけたことは夢のようです。心から感謝申し上げます。今後は、日展会員の名に恥じぬよう、挑戦する気持ちを忘れず精進し、制作を続けて参りたいと存じます。

工芸美術 西 緑



《祈りを紡ぐ》 西 緑



《稜》 森 克徳

会員の承認を受けましたことは大変光栄で、喜びとともに身の引き締まる思いです。多くの方々に支えられ、40年近く日展に出品できたことに感謝しております。今後更に研鑽に努め、素材の持つ魅力を感じ、それをいかに作品として表現できるかを念頭に制作していく所存です。

工芸美術 森 克徳



《妙明》 大田鵬雨

第11回日展にて審査員を拝命し、緊張が解れぬまま終わりました。そしてこの度は歴史と伝統ある日展会員にご推挙賜り誠に有難うございます。身を引き締めこれまで以上に研鑽し、鑑賞して下さる方に感動を与える作品を生み出せるよう精進いたします。今後ともご教導のほどお願い申し上げます。

書 大田鵬雨



《肅而寛》 山口啓山

この度、日展会員を拝命し決意を新たにしています。これまで日展の書を支えてこられた多くの先達の覚悟や姿勢を再確認し、現代に生きる書を追い求め愚直の限りを尽くして精進してまいります。ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

書 山口啓山

かつて入選を夢見た頃より日展の二文字は常に心の中心にありました。現在の私はまさに日展によって育てられたと言っても過言ではありません。この度会員に推挙していただき身の引き締まる思いであり心より感謝申し上げます。これからは一層の精進を重ね書の継承と発展に資するよう研鑽を重ねる所存です。

書 佐井麗雪



《采蓮女》 佐井麗雪

この度は会員への推挙を賜り深謝申し上げます。本年は、日本の書道が遂にユネスコ無形文化遺産へと提案が決定されました。海外への発信はもとより、戦後教育の場で失った日本の柱を取り返すこの大きな契機に、筆に携わる者として微力ながら責務を全うすべく、研鑽を重ねて参る所存です。何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

書 松村博峰



《「寄皇甫七」より》 松村博峰

初入選以来40年、この度会員の末席に加えていただくこととなりました。藝術には何の縁もない家に育ちながら、師匠はもとより諸先生諸先輩のご指導のお陰でここまでやって来られたのだと感謝する毎日です。今後は微力ながら斯界に寄与できるよう精進する決意を新たにしています。

書 岩村節廬



《荀子語》 岩村節廬

## 描き続ける事は生きること

(日本画) 稲岡 仁彦



日展に出品を続けて四十六、七十年になります。初入選は三度目の挑戦で二十七歳の時、それは嬉しかった。

私は芸大受験に敗れて結局一度も日本画の何とやらの指導も受けず独学で描いてきました。岩絵具、麻紙、膠、下図等の多く

を理解ないまま長年の習得した我流で真っ白な画面に向かいます。

平安中期の山寺の住職を本務としていますので写生の題材は四季にあふれています。愛犬の散歩がてらに「描いて欲しい」と語り掛けてくる草木を捜し乍ら、目を凝らし耳を澄まし心を静めうろうろと犬まかせに。写生が大画面を埋めていくほどに充実した時間ですが彩色を進めると苦難の始まりは毎年のこと。これを乗り越え通過しないと絵筆を持ち続けています。

恩師は「一日に五分でもいいから絵筆を持ちなさい」と。たったの五分でもいいのかと思わせておいて絵筆を持つとついつい二、三時間になる事を承知で諭されました。私にとって大きな格言でした。しかし隣りの画室の扉の重い事、遠いこと……云々。

(滋賀県在住) 合掌

## 緩やかな街の「風」

(洋画) 長谷川 雅敏



若いころヨーロッパの石造りの風景に魅せられて以来、石の持つ造形性や、建物とそこに住む人々との精神性を、日展出品作で追求し続けています。私は備後と呼ばれる瀬戸内の地方都市・福山市で、約四十年高校の美術教師を努めながら、制作を続けてきました。刺激が欲しくなると、上京し、いくつもの美術館や画廊を訪れ、活力を充填してきました。

数年前、所属や制作スタイルを超えた作家を緩やかなネットワークで繋げようと、備後地域で表現活動をしている仲間や教え子たちと共に、グループを立ち上げました。市内の美術館や画廊で年に二回の展覧会を開催しています。年々、出品者や来場者も増えてきて、増々私自身の刺激と活力にもなっています。これが緩やかな街の「風」となるよう今後も続けていきたいと思っています。

(広島県在住)

## 各地からの

### 彫刻制作に向き合うなかで

(彫刻) 菊川 敏

私は、兵庫県立明石高等学校に勤務しながら、明石に近い神戸市垂水区の自宅で制作しています。

明石高校には美術科という美術を専門に学習する学科があります。彫刻を専攻する生徒は三年生になると各自の





## 光を求めて

(工芸美術) 森 賢一

木工の町徳島県に生まれ、父の仕事を手伝いながら、片手間に端材を使って小さな作品を作っていました。

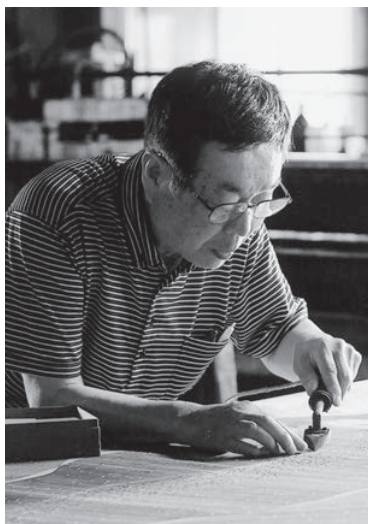
私の使う材料はツキ板という薄い木です。

展覧会には、あまり使われた事のない材料なので、伝統のある寄木、象嵌の世界に作品として受け入れてもらえるだろうか？という思いから出発しています。限られた技法から図案に応じて、手法を新しく開発しなければならず、幾度も失敗を繰り返しました。

材料が薄いため、強度がなく細かい部分に悩まされていました。ある時、材料の裏面に和紙を貼る事を思い付き強度を得る事が出来ました。今ではほとんどの作品にこの手法を使っています。

美術は神を崇めることから始まり発展してきました。好きなカンディンスキー、点描のスーラーからヒントを頂きながら作品を進めて来ました。これからも葛藤を繰り返し、精心の軌跡を作品に込めたいと思います。

(徳島県在住)



## 出品者の思い

### 表現の最高の舞台への挑戦

(書) 澤藤華星

私の住む岩手県二戸市は、暑さ寒さ共に県内随一です。厳しい自然環境の恩恵か、大自然の美しさは格別で、雪原を突き破る新芽の力強さ、夏の清流の透明な輝き、錦秋の山並み、白一色しか無い雪景色に何度心を打たれた事でしょう。

書の日展会場に入ると、この大自然と同じ空気を感じます。まさに森林浴です。清澄で力強く、堂々と生命の喜びを讃えた魅力ある作品ばかりが集うからでしょう。私の拙作も、この日展という舞台に展示資格を得るため、学び、思考し、技術鍛錬する日々を送っています。

自らの作品に対峙する度、汚れや弱さ未熟さに向き合わねばなりません。厳しい道のりです。しかし作品制作こそが、自分を深く知り、何を表現したいのか、どう生きて行きたいのかを明確にしてくれています。一歩ずつ確実に積み重ねて、希望を抱き、再びの挑戦に躍動する。終わり無い喜びの道です。

師や古典、身近にある大自然に感謝して学び、浄化されながら、書の本質を目指す信頼ある作品制作に挑戦を続けたいです。

(岩手県在住)



ンセプトに従って制作の計画をたてますが、自分の表現したい内容を形にするために材料の準備から制作方法まですべてを自分で考えて進めていきます。もちろんまだまだ慣れないことばかりなので、私は個別に生徒の相談にのり表現したいことが何なのかを聞きながらアドバイスしていきます。彫刻を志す高校生は自由な発想で様々なことを考えるのですが、生徒と二人三脚で作品を形へとまとめていくことは私にとっても純粹に刺激になっています。

先日、日展神戸展へ生徒を連れて行きました。生徒がなにを感じ取ったのかはわかりませんが、日々彫刻と向き合うなかで自分自身の制作に真摯に向き合う姿勢を忘れずにいたいと考えます。

(兵庫県在住)



1987年2月3日  
教皇ヨハネ パウロ二世からの祝福



《有馬の天使》  
原城大聖マリア観音協侍



《原城大聖マリア観音》(楠 9m 75cm)  
令和5年完成 南島原市に寄贈



1981年ローマ法王に奉献した  
マリア観音 (楠45cm)



《天草の天使》  
原城大聖マリア観音協侍

始めに今は遠い内弟子時代のことを書いてみたいと思う。

——昔、千利休が小僧だった頃、師匠に呼ばれ庭の掃除を命じられた。見ると先輩の僧がきれいにした後で、ちり一つなかった。普通の人ならなぜ？とまどうのに利休は「はい」といって庭に走り出て一本の木をゆすった。すると今迄味気なかった庭にバラバラと紅葉が散りたちまち秋の気配と茶の湯の風情が漂ったので、師匠は利休の才能にいたく感心した。

作品だけが芸術ではなく、日常のすべてを総合して芸術であるべきだ、掃除なんかと言って手抜きする人は作品にもそのくせが表れて全部がだめになる。

また若いうちに功をあせるな、若い日はしっかり基礎を固め老成して大輪の花を咲かせなさい。大きな器は晩くに出来る、大器晩成だ。——

これは私が内弟子に入って興味深く聞いた人間国宝佐々木象堂先生の言葉である。

佐々木象堂先生に二年、橋本朝秀先生に三年師事した後、独立してまだ未熟な私は新聞配達をしながら日彫展に出品をつづけていた。ある日、配達先で柳原義達先生に出合い「そんなことをしてはだめだ、清水多嘉示さんに紹介するから武蔵野美術学校に入ってもっとデッサンしなさい」と言っすぐ清水先生に電話して下さった。

清水先生の研究科で二年間デッサンに集中し、渡仏してソルボンヌのフランス語講座を受けながらブルデル美術館に足しげく通ったのが私の青春であった。

日展の委嘱出品者になる頃から自分の内なる力を試したい、人生をかけて一つの作品に挑戦したいと思うようになり一九八一年に来日したローマ教皇ヨハネ・パウロ二世に祝福を請願して制作を始めた作品が、この度四十年ぶりに完成した「原城大聖マリア観音」である。



《生命の果実》  
(令和元年  
改組 新 第6回日展出品作)  
三田村有芳 初入選



左から有純、秀芳、泉美、自芳



《月の光 その先に》  
(平成28年 改組 新 第3回日展出品作) 内閣総理大臣賞



《流動》  
(昭和48年 第5回日展出品作)  
初入選



令和6年11月  
「第11回日展」孫たちと

## 日展と三田村家の祖父・父・私・子・孫への軌跡

第四科工芸美術 理事 三田村 有純

幼少期、祖父自芳や父秀雄（秀芳）と共に日展の帰り道、ゆで卵を食べながら上野の山を降り、家族で食事をした楽しい記憶は鮮明です。

祖父自芳は明治十九年、浅草橋で錦絵刷師の四男に生まれ、一三歳で親戚の江戸蒔絵七代赤塚自得に入門。自得は後に帝國藝術院会員となり、日展に工芸美術を設ける事に尽力しました。自芳は自得の一番弟子で塾頭を経て独立、師と共に日展に出品。ラジオでの特選受賞を聞き、初日に一族が紋付羽織袴で集まり、上野の牛鍋屋で盛り上がった話を聞いています。弟弟子の太田自適、魚野自醒なども日展で活躍しました。

大正二年生まれの父秀雄も自得、自芳の門に入り蒔絵の道に進みます。祖父は日本画を学び線描を意識した作品を制作、父は洋画を学んで漆芸に入り、新たな技法を開発し日展に出品していました。

生活の中心に日展があった家族の中、私も日展を目指します。日展初入選は昭和四八年二三歳の時の、乾漆壁面『流動（るどう）』でした。出品初期の頃、尊敬する日展漆芸作家の高橋節郎先生が六〇歳で東京藝術大学教授に就任されました。私は大学院を出て就職も決まっていたのですが、先生から「研究生として戻らないか」と電話を頂きましたが、再度学生に戻り、藝術家の基本“を学ぶ感動的な日々の後に助手・教授、名誉教授と先生の後を継いで後進の指導に関わることになりました。日展が結んでくれた縁に深く感謝しています。

大学の教え子であった妻泉美は、自分の母から戦中戦後の混乱期に日展を見ることが唯一の希望だった話を聞いて育ち、四人の子供を連れて秋の日展に出かけていました。家の筆筒には、子供達が日展で好きな作品絵葉書を六枚ずつ買って貼り付けた思い出が残っています。その子達も成長し、次男有芳は日展に六回連続で入選。近年は孫達を連れての日展五科巡りが楽しく、三田村家が四代に渡って日展と共に在ることに感謝しています。

教えて、作家さん！  
わくわくワークショップ  
「手紙を書こう！」

色あいなどがとてもよくいっしょんで目がうばわれるすてきな作品でした。

私は日本ぶようをやっていてこの作品の着物があったらそれを着て踊りを踊りたいです。すごく目も心もうばわれるすてきな作品でした。すてきな作品を見せていただきありがとうございます。

実菜さん13歳

色合いに一瞬で目を奪われましたと言って下さって、染色で作品を作っている者にとって嬉しい感想でした。作品のテーマで取り組んでいる源氏物語ですが、平安時代に紫式部という女性書いた物語です。とても心引かれる物語で、54帖もの長編です。今回は39番目の「夕霧の帖」を取り上げています。十三夜の月の下、山里の山荘での夕霧のやるせない気持、思いを寄せる女君のせつなく淋しい心模様を情景描写と色彩でなるべくシンプルに表現することを心がけて制作しました。実菜さんは日本舞踊をされているとのこと、作品の着物があれば着て踊ってみたいとメッセージを下さいました。私は帖ごとに作品制作をしていて、着物の形体で制作した作品もあるので、いつか着物で染めた作品も見て下さると嬉しいです。

兼先恵子



（彫刻）鈴木紹陶武  
《ランウェイⅡ 秋の宝石》



（工芸美術）兼先恵子  
《「十三夜の愁え」－源氏物語・夕霧の帖－》



大きくてすごい。ふでは何 cm なんです？ドンていうかんじでかっこ良かったです。あとさっき声かけてくれてありがとう。「明」をおしえてもらいました。いっしょにとったしゃしんは思いだよ！！あとポストカードかったよ！！きねんに大じにするね♡

どうやって3000年前のかん字を知ったんですか？（もしかしてパソコンでしらべた？）なん歳からしょどうなったんですか？あとたいせいはどうゆうたいせいだったんですか？（書くときのしせい）あと字が上手になるためのアドバイスください。

ちなみさん8歳

お手紙ありがとう。少しおはなししたんですね。筆は直径3cm、長さ6cm位です。すみをたっぷりつけてかいてます。字しらべは、せんもんの字書があります。今から3,200年ほど前に書かれた字です。書道始めたのは18才から。わたしの先生は青山杉雨で、りっぱな先生でした。今はなくなられています。しせいですが、ひざをついて（ゆかで）かいてます。上手になるほうほうは、たくさん練習することですね。たくさんのおしもん、ありがとう。

高木聖雨



（書）高木聖雨《明治》

「わくわくワークショップ『手紙を書こう！』という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集める企画を実施しました。5年目の今年も394通のお手紙をいただきました。

ネコやネズミの一つ一つのパーツがとても上手でした。あと、どんぐりとチーズが小さくてかわいいふんいきで、とてもすてきでした。

ネコやネズミの毛なみのさらさら感がすごく、「どうやって作っているのかなー？」と思いました。今日見て一番心にのこってかんどうしました。

美宇さん8歳

会場にある多くの作品より『ランウェイⅡ 秋の宝石』を選んでくれてありがとうございます。ねずみのパーツや、どんぐり、チーズと細かな所までよく観て感想を頂きありがとうございます。どうやって作るかは、簡単に書くと、粘土で作った猫やねずみを石膏で型をとり、FRP（樹脂）で成形しています。表面がサラサラだったのは、ペーパーで優しくこすって、表面のザラザラをとっています。これは、視覚障害のある方が触って鑑賞しても痛くないようにするためです。そこまで気付いてもらえて嬉しかったです。「今日一番心に残って感動しました」との感想に心から感謝致します。来年もぜひ日展に観に来て下さい。

鈴木紹陶武



「夏休み一日ART体験」

第20回『One day Art』

制作の体験だけじゃない、作家を、展覧会を体験できる『One day Art』。今年も子供たちの挑戦の夏が来ました。学校ではできないようなジャンルも、日展作家が丁寧に指導します。

(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。日展の芸術文化普及活動です。

主催

公益社団法人 日展

開催日程

7月19日(土)工芸美術(漆)  
7月20日(日)書  
7月26日(土)彫刻  
7月27日(日)日本画  
8月3日(日)洋画  
※時間は各回で異なります。  
☆作品展は、8月16日～20日  
日展会館で開催します。

場所

日展会館  
東京都台東区上野桜木2-4-1

参加者募集!

参加費(※教材費等)

1名 二、五〇〇円

指導作家・内容

※詳細はHPでご覧になれます

応募方法

★ハガキ、FAX、メールで、住所・氏名・電話番号・学年・希望日(必ず第2希望まで)を明記。

★子供が2名以上で参加希望の場合は、参加者全員の住所・氏名・電話番号・学年・希望日を記入

★保護者が実技参加を希望される場合は、参加の有無と氏名を必ず記入して下さい。  
※締め切り7月10日(必着)

定員 各回 40名程度

※見学の大人は人数に含まない



(前回の様子)

日展会館利用案内

日展会館の貸しスペースは、ギャラリー・会議室・研究会場・講演会場・教室としてご利用いただけます。

美術団体・書道団体の展覧会や会議・セミナー・イベントをはじめ、個展でもご利用ください。

参加人数等に応じて、一室(三〇名)・二室(六〇名)・三室(九〇名)の選択が可能です。

料金等詳細はホームページをご覧ください。

※日展会員・準会員・会友の皆様は割引料金でご利用いただけます。

(施設利用に関するお問合わせ)

公益社団法人日展 施設管理係  
電話 03(3821)0453



(ギャラリー利用例)



(会議・1室利用例)

日展会館貸しスペース面積・着席定員

| 貸しスペース        | 面積   | 着席定員 |
|---------------|------|------|
| 201号室         | 71㎡  | 30名  |
| 202号室         | 71㎡  | 30名  |
| 203号室         | 76㎡  | 30名  |
| 201+202号室     | 146㎡ | 60名  |
| 202+203号室     | 148㎡ | 60名  |
| 201+202+203号室 | 221㎡ | 90名  |

## 日展パートナーズについて

日展パートナーズは、公益事業活動を財政的にサポートいただく賛助制度（寄附制度）で、個人と法人・団体を単位として募集いたします。

### （個人）

一口／年 二〇、〇〇〇円

（十口まで申し受けます）

### （法人・団体）

一口／年 一〇〇、〇〇〇円

（十口まで申し受けます）

日展は、その前身である文部省美術展覧会（文展）の創設から今年一一八年を迎える伝統ある美術団体です。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書と五部門からなる日本最大規模の「日本美術展覧会」には全国から多くの美術ファンのご鑑賞を頂いております。日展は展覧会事業の他に、美術に関する調査研究事業、美術に関する講演会及び講習会事業、美術鑑賞及び創作に関する体験講座事業、美術研究冊子及び図書刊行事業等を通じて、我が国美術文化の振興発展に寄与することを目的としています。

これらの諸事業を推進するには、多くの個人の皆様並びに法人・団体の皆様からの深いご理解とご支援をいただくことが欠かせません。

日展では平成二十九年より、日展の公益事業活動に賛同し、ご支援くださる方々を対象とした賛助会員制度「日展パートナーズ」を設け、運用いたしております。皆様方には、本趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう「日展パートナーズ」へのご加入を心よりお待ちしております。

### 賛助会員制度《日展パートナーズ》

（掲載希望者のみ 令和7年5月末現在）

#### ●個人

|        |        |
|--------|--------|
| 東 晋一郎様 | 新井演子様  |
| 飯田真未様  | 石崎國夫様  |
| 井谷善恵様  | 井上道守様  |
| 今田功一様  | 今村忠司様  |
| 岩田 薫様  | 梅澤真那様  |
| 角井 博様  | 梶山純子様  |
| 兼重勇希様  | 菊池和久様  |
| 栗原直子様  | 呉 祐輔様  |
| 黒田浩平様  | 児玉安司様  |
| 近藤禎男様  | 坂本美賀子様 |
| 佐川かおる様 | 澤井和行様  |
| 高木和美様  | 高木寛史様  |
| 田頭益美様  | 高橋千笑様  |
| 竹尾明子様  | 竹本葉子様  |
| 田中宏欣様  | 土屋礼央様  |
| 寺岡宏高様  | 中室里恵様  |
| 西田俊通様  | 西村潤帰様  |
| 西村友子様  | 野田裕一様  |
| 藤田理恵子様 | 藤本真之様  |
| 堀 稲子様  | 宮島幸男様  |
| 村里 暁様  | 森島順子様  |
| 吉見次郎様  |        |

#### ●法人・団体

|                  |
|------------------|
| 株式会社 IDホールディングス様 |
| 株式会社 大垣共立銀行様     |
| 岡崎信用金庫様          |
| 株式会社 玉蘭堂様        |
| 謙慎書道会様           |
| 一般社団法人 光風会様      |
| 公益社団法人 創玄書道会様    |
| 株式会社 高山草月堂様      |
| 株式会社 千葉銀行様       |
| 株式会社 筑波銀行様       |
| T&Tパートナーズ法律事務所様  |
| 一般社団法人 東光会様      |
| 東洋額装 株式会社様       |
| 株式会社 西文明堂様       |
| 公益社団法人 日本書芸院様    |
| ニューカラー写真印刷 株式会社様 |
| 株式会社 原汲古堂様       |
| 一般財団法人 ビオトピア財団様  |
| 福井素鳳堂様           |
| 有限会社 みなせ筆本舗様     |
| 一般財団法人 桃園学園様     |
| 株式会社 谷中田美術様      |
| 菱三印刷 株式会社様       |
| 株式会社 リンクス様       |
| 株式会社 和光様         |

（詳細の問い合わせ）  
日展事務局  
TEL 03（3821）0453

第 11 回 日 展 巡 回 展

| 開催地 | 会 期                            | 会 場  | 開 催 者                                       | 入場者数(人) |
|-----|--------------------------------|--|---|---------|
| 東 京 | 令和 6 年11月 1 日～11月24日           | 国 立 新 美 術 館                                | 公益社団法人 日 展                                  | 82,485  |
| 京 都 | 令和 6 年12月21日～<br>令和 7 年 1 月18日 | 京 都 市 京 セ ラ 美 術 館                          | 日展京都展実行委員会                                  | 23,905  |
| 名古屋 | 令和 7 年 1 月22日～ 2 月 9 日         | 愛知県美術館ギャラリー                                | 中 部 日 展 会                                   | 31,050  |
| 神 戸 | 2 月15日～ 3 月23日                 | 神 戸 ゆ か り の 美 術 館<br>神 戸 フ ァ ッ シ ョ ン 美 術 館 | 神 戸 市 展 社<br>公 益 社 団 法 人 日 展 社<br>神 戸 新 聞 社 | 34,963  |
| 富 山 | 4 月25日～ 5 月11日                 | 富 山 県 民 会 館 美 術 館                          | 北 日 本 新 聞 社                                 | 14,321  |

刊行物のご案内

第十一回日展作品集

- 定価 三、四〇〇円（税込）
- 五部門の全会員・審査員・受賞者の作品図版
- 別冊 作家本人による作品解説、釈文（書）

第十一回日展図録

（五部門五分冊）

- 定価 各三、四〇〇円（税込）
- 東京会場の全陳列作品図版・目録を収録
- 審査所感、授賞理由ほか諸資料

日展作品集・図録

（バックナンバー）

- 割引価格 各一、〇〇〇円（税込）
- ※送料 一冊 六〇〇円
- ※バックナンバーにつきましては、在庫が僅少の回もございますので、お問い合わせください。

（問い合わせ先）

〒110-0002  
東京都台東区上野桜木2-4-1  
公益社団法人日展 出版物係  
電話 03(3821)9543

叙勲

令和七年四月

旭日中綬章  
春山 文典（日展理事）

表紙  
「あくがれ」

二〇一〇年（平成二十二年）  
第四十二回日展  
65×23.2cm  
榎倉香邨  
（一九二三～二〇二二）

帝京大学書道研究所蔵

左の先生方が逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

|    |             |        |
|----|-------------|--------|
| 鈴木 | 實先生（洋画・会員）  | 7.2.16 |
| 久保 | 浩先生（彫刻・会員）  | 7.2.26 |
| 原田 | 上先生（書・会員）   | 7.3.26 |
| 尾長 | 保先生（工芸・会員）  | 7.4.19 |
| 南雲 | 龍先生（工芸・会員）  | 7.5.1  |
| 谷野 | 吉冬先生（工芸・会員） | 7.5.4  |
| 川原 | 和夫先生（工芸・会員） | 7.5.22 |
| 日野 | 功先生（洋画・会員）  | 7.5.27 |

編集後記

世界では、様々な局面で不穏な状況が続いていますが、日本は新緑が目に見え、美しい景色が広がっています。

本号では年度初めとして定時総会、新会員の寄稿文を掲載しています。「各地からの出品者の思い」では、地域の気候風土に根差した制作について、「作家人生」私の仕事―では、彫刻、工芸美術の先生から制作に関わるエピソードや制作姿勢、日展を代々家族の存在の軸としてきた軌跡など執筆していただき、人との出会いの大切さを感じさせられました。また「教えて作家さん」は、芸術文化に対する幼少期から中等教育の社会貢献として、重要な取り組みとしたいと思います。

秋の日展も近づいてまいりました。美術の世界でも生成AIの活用の問題は今後も議論の対象になると思いますが、人間の五感を生かした創造力に期待しています。

（上原）

編集委員  
亀山 祐介 西田 真人  
浅見 文紀 松野 行  
野原 昌代 堀内 秀雄  
上原 利丸 古瀬 政弘  
歳森 芳樹 山本 大悦